

## 宮城県本吉郡南三陸町におけるエコノミークラス症候群予防検診活動

3月23日、福井大学は、宮城県立循環器・呼吸器病センターからの要請を受け、宮城県本吉郡南三陸町内避難所におけるエコノミークラス症候群予防検診のため、同大学医学部附属病院神経内科・地域医療推進講座の山村修講師を派遣しました。

活動内容は、下腿浮腫を認める避難者の抽出と下肢静脈エコー（超音波検査）の実施、弾性ストッキングの配布、ワルファリン内服避難者の採血検査（プロトロンビン時間国際標準比：PT-INR）でした。24日午後に現地入りし、下肢静脈エコーは10名に、PT-INR検査は7名に施行しました。

このうち、エコノミークラス症候群の原因となる下肢の深部静脈血栓は4名で検出され、直ちに全員を避難所内の救護所医師に紹介しました。翌25日には、ガソリン不足のため配給が滞っていた弾性ストッキング約300セットを宮城県亘理郡亘理町の災害対策本部と福島県立医科大学に輸送しました。



下肢静脈エコー

PT-INR 測定検査